

講演Ⅱ 「受け継がれる技術技能」

株式会社きんでん 人材開発部 志水 優太 様

私は、2019年8月にロシア連邦カザンで開催された第45回技能五輪国際大会の情報ネットワーク施工職種で金メダルを獲得しました。技能五輪とは、青年技能者の技能向上と参加者の親善、交流を目的とし技能労働者が技能を競う大会です。日本では毎年全国大会が開催され、2年に一度国際大会が開催されます。

情報ネットワーク施工職種は、構内や宅内の情報配線システムの構築とシステムの異常個所の特定など、情報通信のインフラ整備を行う職種です。競技の中で光ファイバーケーブルの施工があります。この光ファイバーは一本の太さが0.1ミリほどしかなく、繊細な取り扱いが求められます。毎日繰り返し練習していくことで、少しずつ繊細な感覚を身に付けていきます。入社2年目で選手となり初めて出場した技能五輪全国大会では、緊張で手が震えて思い通りに動けず、全作業を完了することが出来ませんでした。結果は入賞外で、とても悔しい思いをしました。当時指導員に言われたのが、「選手1年目で結果が出るほど技能五輪は甘くない!」、「技術・技能が簡単に身に付くのなら、職人なんていない」と言われたのが印象的でした。その言葉を胸にその後の訓練ではより一層努力するようになりました。訓練の時から誰にも負けたくない、絶対に表彰台の1番上に立ちたいという気持ちがありました。その思いもあってか、技能五輪全国大会で2年連続金賞を受賞することが出来ました。3年目にロシア連邦カザンで開催される第45回技能五輪国際大会に出場することが決まりました。

国際大会に向けての訓練では、これまでの国際大会で金メダルを獲得された2人の先輩が指導員として携わり、とても心強かったです。まず最初に海外の材料に馴れることから始まり、当日公開課題への対応力、英語の読解力強化など、勝つために出来る事を全力で取り組みました。訓練中は、課題も多くプレッシャーや孤独感があり、精神的につらく追い込まれた状況が続きましたが、会社や指導員、家族のサポートのおかげで、最後まで諦めずに乗り越えられました。

国際大会本番では、大きな会場に世界各国から多くの人が集まり、今までに経験した事のない独特の雰囲気でした。4日間競技のうち1日目と2日目は会場の雰囲気に吞まれてしまい思うように作業が出来ませんでした。落ち込んでいると、エキスパートである上司に、「まだ諦めたらあかん、最後までやり切ろう」と言われ、その後は気持ちを切り替えることができました。3日目と4日目は落ち着いて作業することができ、4日間で17時間以上もあった競技が終わった時には疲労困憊でしたが、やり切ったという思いでした。

閉会式では上位入賞国がステージに呼ばれ銅・銀・金の順に発表される形式でした。情報ネットワーク施工職種の発表になり、スクリーンに日本、ロシア、中国が表示され銅メダル以上が確定となりました。ステージ脇で結果を待っていると銀メダルで中国とロシアの名前が呼ばれ、金メダルで私の名前が呼ばれました。私は表彰台に上がる時に自然にガッツポーズをしていました。表彰台からの景色は今までの苦労をすべて吹き飛ばすくらいの感動がありました。更に日本人選手最高得点者に与えられるベストオブネーションも受賞できました。そして情報ネットワーク施工職

種で日本の8連覇が確定しました。

金メダルを受賞できたことの大きな要因として指導員や会社のサポートがあります。株式会社きんでんでは長年技能五輪に参加しており、多くの先輩方が入賞し、国際大会で金メダルを受賞しています。その知識と経験が今の私たちに受け継がれ、技能向上に繋がっています。指導員も選手を勝たせるために全力で指導し、楽しいことも苦しいことも共有してきたからこそ、チーム一丸となって戦うことが出来たと思います。

私は技能五輪を通して学んだことがあります。1つ目は目標を持つことの大切さです。学生の時大きな目標もなく毎日授業を受ける日々でしたが、入社後技能五輪を知り、自分も挑戦したい、国際大会で金メダルを獲りたいという大きな目標が出来ました。目標が出来たことにより毎日の訓練を大切にすることができ、次はどうやったらできるかを考え、モチベーションにも繋がりました。今、夢や目標が持てない人が、夢や目標を見つけるには、とにかく色々なことに挑戦することで、「自分にはできない」や「今のままが楽でいい」という考え持たず、少しでも興味があれば挑戦する気持ちが大切だと感じています。私も高校では電気科で学び、情報通信の分野は全く知らなかったのですが、技能五輪で自分の知らない情報通信分野を知って、初めは何も分からないがやってみようという気持ちだけで挑戦しました。

2つ目は、周りに感謝して行動することです。技能五輪に出場するためには、1人だけの力では無理です。指導員や会社、家族や友人の支えがあってこそ出られるのです。初出場の大会で入賞できなかった時、指導員や会社の方々に「来年頑張ろう！」と声を掛けられました。普段会わない社員の方々にも「応援しているよ！」と言われ、自分が知らないところで多くの人から応援され、支えられているのだと知りました。それまでは自分の為だけに努力してきていましたが、周りの環境に感謝し、応援してくれる人の為にも絶対に金メダルを獲ろうと思うようになりました。その思いが私の目標になり、支えになりました。訓練で上手いかず、挫けそうなときはその気持ちを思い出し、前に進むことができましたし、より一層努力できました。目標だった金メダルを受賞できた時は、目標を達成した喜びと、周りの人が自分のことのように喜んで下さり、本当に諦めずにやってきてよかったという気持ちになりました。周りに感謝するというのはよく聞きますが実感するのは難しいものです。私は感謝とは、ただ受け取るだけのものではなく、それに対し、自分がどう行動したかが重要なのだと考えています。技能五輪を通し、周りに感謝することと、周りの為に行動することの重要性を学びました。そして、諦めずにやり遂げる精神を併せ、これからの長い企業人としての働き方に活かせると確信しています。

現在、私は後進の育成に携わらせていただいています。自分が培った技能と経験を後輩に伝えるとともに、技能五輪を通し、人としても成長することのできる人材育成に力を入れていきたいと考えています。また、技能五輪のことをより多くの方に知っていただき、日本の技術・技能の向上に努めてまいりたいと思います。